

近年府内で発生を警戒している病害虫

■ たまねぎ ^{じょうはん} えそ条斑病 (令和4年府内で確認)

- IYSV(アイリスイエロースポットウイルス)の感染により発生する。
- IYSVは、ネギアザミウマ(図9)によって媒介され、たまねぎ えそ条斑病(図11)・ねぎ えそ条斑病・トルコギキョウ えそ輪紋病(図12)などを引き起こす。
- たまねぎやねぎがIYSVに感染すると、はじめ葉身に退緑斑を生じ、その後、紡錘型のえそ条斑(図11)となる。進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死する。
- トルコギキョウでは、葉にえそ輪紋(図12)、茎にえそ条斑を生じ、発生が甚だしいときには枯死する。
- IYSVはたまねぎ、ねぎ、にらなどのヒガンバナ科野菜や、トルコギキョウ、アルストロメリアなどの花き類で被害が大きい。また、あぶらな科やセリ科の野菜でも感染が確認されている。
- 一度ウイルスを獲得したネギアザミウマは死ぬまでウイルスを伝搬するが、経卵伝染はしない。また、種子伝染や土壌伝染はせず、管理作業による汁液伝染の可能性も低い。



図9 ネギアザミウマ成虫



図11 たまねぎのえそ条斑



図10 ネギアザミウマの食害痕



図12 トルコギキョウのえそ輪紋

提供: (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所